

京都大学	博士 (社会健康医学)	氏名	小 崎 真規子
論文題目	Physician Job Satisfaction and Quality of Care Among Hospital Employed Physicians in Japan.		
<p>(論文内容の要旨)</p> <p><背景> 近年、医師の仕事満足度の低下が世界的に指摘されている。先行研究より医師の仕事満足度は提供する医療の質と関連することが明らかになっており、医師の仕事満足度の低下に伴う医療の質の低下が懸念されている。医療の質の要素として、Donabedian は従来からの”art”の部分に相当する「対人的ケア」と、”science”の部分に相当する「技術的ケア」を提唱しており、先行研究から、医師の仕事満足度は対人的ケアの質との間に正の関連を認めることが明らかになっている。一方で、現在までのところ医師の仕事満足度と技術的ケアの質との関連は不明である。</p> <p><目的> 病院勤務医の仕事満足度と、提供された技術的ケアの質との関連を明らかにする。</p> <p><方法> 全国 13 病院の常勤内科医 53 名に対して自記式質問紙調査を行い、仕事満足度を測定した。仕事満足度の評価には、日本の病院勤務医用に開発・検証された Japan Hospital Physician Satisfaction Scale (JHPSS) より”Global Job Satisfaction (GJS)”の部分を用いた。次いで、提供された技術的ケアの質の評価のため、当該医師に、高血圧、2型糖尿病、気管支喘息のいずれかで通院している 568 患者の外来診療録のレビューを行った。質の評価は上記 3 疾患の慢性管理について、本研究用に開発された Quality Indicator (QI) を用いて定量的に測定した。QI は RAND appropriateness method の変法を用いて作成し、疾患横断的な QI (「全般的ケア」) も含め最終的に 20QI が作成された。質の指標としての「質スコア」は、医師毎に推奨される総 QI 数に対して実施された QI 数の割合として算出した。質スコアは、全体 (20QI) および疾患・全般的ケア別に算出した。医師の仕事満足度と質スコアの関連を見るために、医師属性、再診に当てる時間、および病院属性をモデルに入れて重回帰分析を行った。</p> <p><結果> 医師の仕事満足度 (GJS) は平均 3.43 (SD:0.67) だった。外来診療の質にはばらつきを認めた (平均全体スコア 63.9%, SD12.2)。医師の属性や仕事満足度、再診時間、教育病院か否かを調整した解析において、医師の仕事満足度が 1SD 増加した場合の質スコアの変化は、全体スコア 0.3% (p=0.85) の増加であった。高血圧、2型糖尿病、気管支喘息および全般的ケアそれぞれの質スコアの変化についても同様に、仕事満足度 1SD の増加につき、-3.0% (p=0.22)、2.5% (p=0.44)、8.0% (p=0.21)、-0.4% (p=0.76) であった。質スコアとの間には、教育病院か否かのみが関連を認めた (教育病院である場合、そうでない場合に比べて質スコア+10.1%, p = 0.01)。</p> <p><結論> 今回、医師の仕事満足度と技術的ケアの質との間には有意な関連は認められなかったが、本研究の限界として以下が挙げられる。①外来の限られた疾患のみを対象としており、その他の疾患・セッティングでの関連は不明である。②望ましいサンプルサイズが得られず、十分な検出パワーが得られなかった可能性。③QI の情報源としては診療録のみを利用したため実際に行われた診療の質を低く見積もっている可能性がある。④ GJS は長期の再現性については検証されておらず、QI の全対象期間をカバーしていない可能性がある。今後、質評価の情報源として診療録以外も用いての検討、施設属性別での検討などが必要と考えられた。</p>			

(論文審査の結果の要旨)

先行研究より医師の仕事満足度は提供する医療の質と関連することが明らかになっており、医師の仕事満足度の低下に伴う医療の質の低下が懸念されている。医療の質の要素として、Donabedian は「対人的ケア」と、「技術的ケア」を提唱しており、先行研究から、医師の仕事満足度は対人的ケアの質との間に正の関連を認めることが明らかになっている。一方で、現在までのところ医師の仕事満足度と技術的ケアの質との関連は検討されてこなかった。本研究は、病院勤務医の仕事満足度と、提供された技術的ケアの質との関連を検討したものである。病院の常勤内科医を対象とし、まず仕事満足度の測定を行い、次いで対象医師が担当する高血圧、2型糖尿病、気管支喘息の外来患者の外来診療録から技術的ケアの質の評価を行った。病院勤務医の仕事満足度は、日本の病院勤務医向けの仕事満足度尺度として開発・検証された尺度を用いて測定し、技術的ケアの質の評価には Quality Indicator (QI) を用いた。本研究では、提供される医療の質にばらつきを認めたが、医師の仕事満足度と提供された技術的ケアの質の間には有意な関連を認めなかった。以上の研究は良質な医療の提供と関連する要因の解明に貢献し、医療の質改善に寄与するところが多い。

したがって、本論文は博士 (社会健康医学) の学位論文として価値あるものと認める。

なお、本学位授与申請者は、平成 21 年 1 月 25 日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。

要旨公開可能日： 年 月 日以降